



NPO 法人

首都東京みなと創り研究会

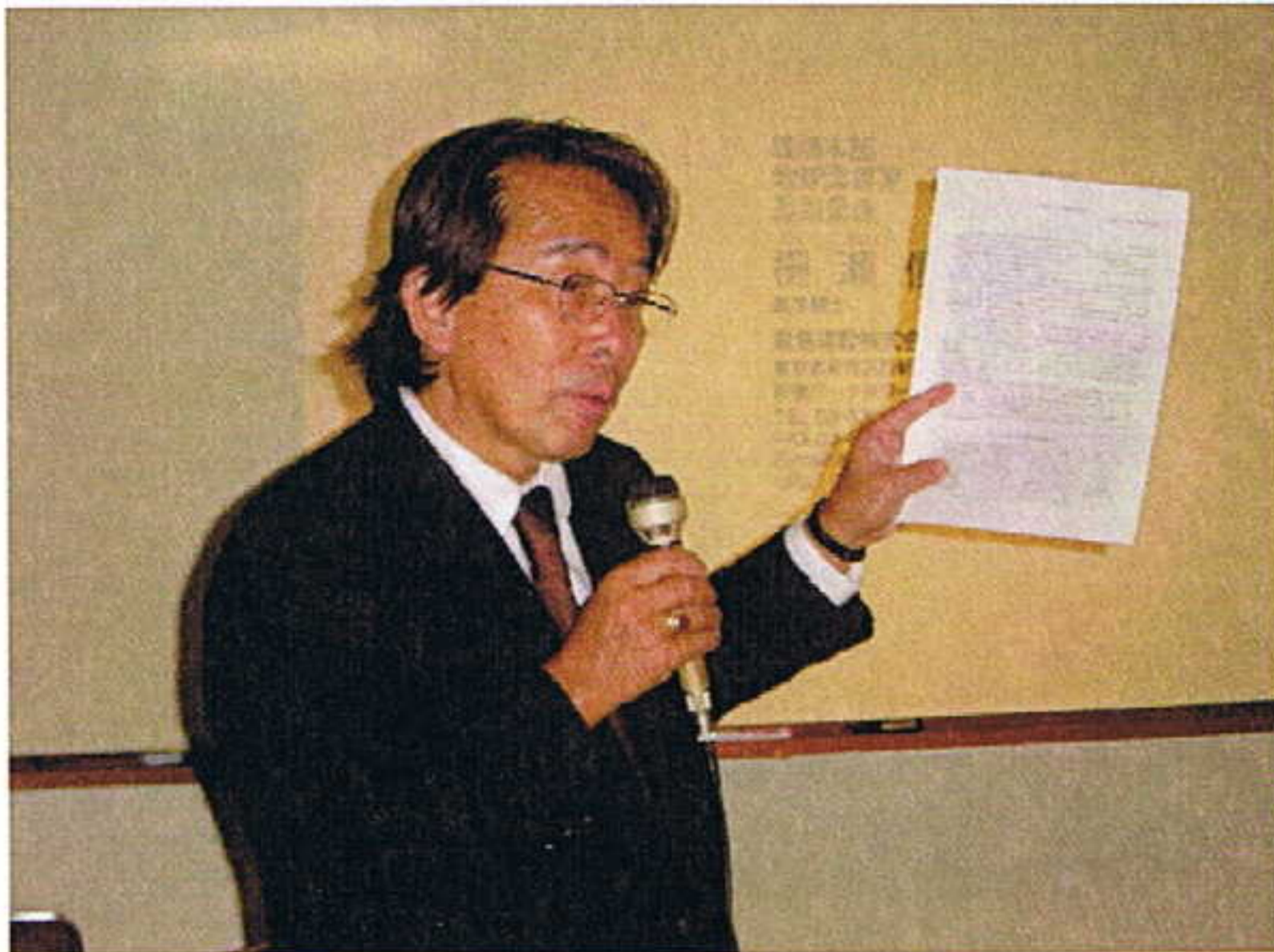
東京都練馬区西大泉3丁目13番44号

理事長 小倉健男

<http://members3.jcom.home.ne.jp/mtport>

活動報告

第2回講演会を開催



当法人主催による第2回講演会を平成18年10月25日に開催しました。

講演会は「江戸前うなぎ復活の試み」と題し、有明北地区埋立護岸に採用した「カニ護岸」パネルの研究開発で知られる鹿島建設環境本部地球環境室環境計画担当部長 農学博士の 柵瀬 信夫氏を講師に迎え、会員を中心に集まり開催しました。

講演は「江戸前」＝「うなぎ」という、話から講師の東京湾の水域環境改善への熱い思いを軽妙な語り口で語られ、豊富なOHP資料の

図と写真により専門外の参加者にも分りやすい講演であった。

講演は、まずカニ護岸パネルの開発に触れ、カニが棲める護岸を整備することにより、カニの幼生を餌とするハゼが増える機構を説明。つぎに従来の直立護岸に替え、潮溜りや汐入の池を設け、水生生物の生息環境に配慮した護岸を整備すれば、多様な水生の動植物が発生し、これらの食物連鎖からウナギの復活も果たせると説明。実際に、講師らの提案により最近整備された芝浦アイランドの柵式護岸の汐入の池でいろいろな魚とウナギが確認されている。こうした整備には地域住民や小学生に参加を求め、進めており、環境事業の進め方についても工夫している。

最後に、保水性コンクリートの開発についても触れ、ヒートアイランド対策として効果的な用途があるだろうと提案された。

講演のレジメは下記のとおりですが、OHP資料が92枚にもなることから、公演記録をCDにまとめました。興味のある方は事務局までご連絡ください。

〔講演会レジメ〕

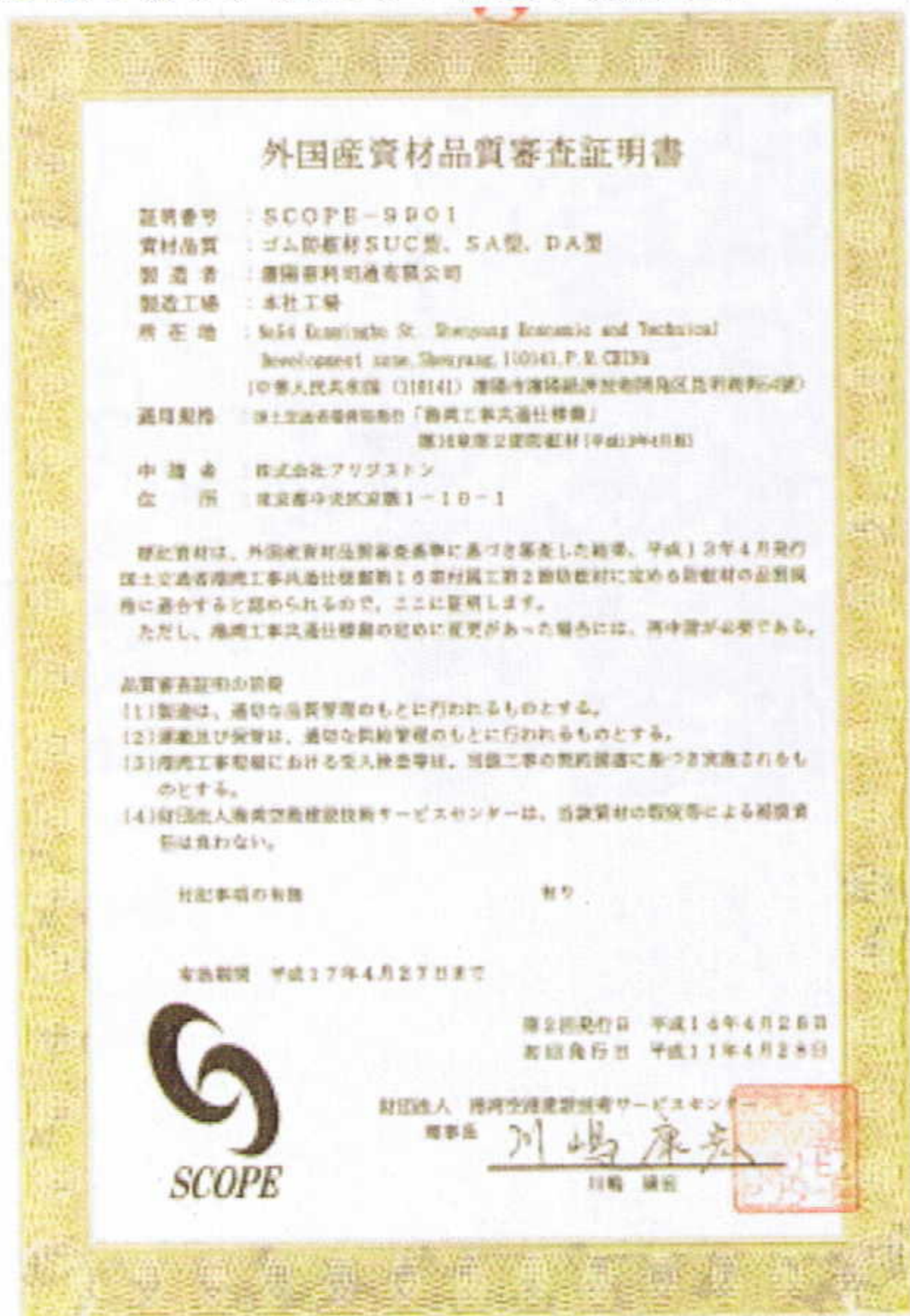
1. はじめに
有明北との出会い、資料について
研究のはじめ
2. うなぎの生息環境
うなぎとの関わり、うなぎの現状
うなぎ四方山話、蒲焼
3. うなぎ漁
うなぎの漁場、漁法、東京の漁獲量
漁場の減少
4. うなぎの復活
餌と酸素、カニが大切
5. 直立護岸と緩傾斜護岸
緩傾斜護岸に生き物がいないのはなぜか
温度、空隙、カニがすめる護岸、カニの餌
カニの棲み心地
6. 有明北
新聞記事、カニとハゼのかかわり
護岸改善の方向、潮入りワンドの実験
潮溜りの効果、登れる護岸
7. 芝浦アイランド
潮入りの事業化、テラス式潮溜り
カニの引越し作戦、潮溜りの水環境
ウナギがいた
8. 横浜・京浜運河など
横浜MM21の生態護岸、京浜運河など
9. ヒートアイランド対策
ウエットコンクリートの開発
ウエットコンクリートの効果、打ち水

SCOPE は、国土交通省の外郭団体として平成6年に設立され、港湾・空港の建設・維持管理に関する発注者支援などを行っている、全国10支部を抱えた非常に大きな公益法人です。この中で、地方自治体からの出向者は東京都(私)と神戸市からそれぞれ1名ずつの計2人だけですが、私の業務内容の一部を紹介いたします。

それは、外国産資材品質審査証明事業。外国産の建設資材を公共事業で使用する場合には、港湾工事共通仕様書に適合した品質であることを証明するSCOPE発行の品質審査証明書が必要であり、私はその審査事務局を行っています。

す。防舷材やアルミニウム合金陽極の申請がほとんどであり、国内産との価格差が大きいことがその理由にあげられます。羽田空港D滑走路など大きなプロジェクトがはじまると申請が集中しているようにも見受けられます。

この事業は、そもそも公共事業のコスト削減を目的として始められたものであり、当初は国をあげて外国産を積極的に推進した傾向にはありました。しかし、最近はコスト削減よりも品質確保に目が向けられていることもあり、外国産の品質審査においてもより厳しく適正な審査を行っていく必要があると感じています。



研究部会報告

コンテナ取扱施設拡充問題研究部会

研究部会では下記勉強会を開催しました。

『大井コンテナターミナルの現況と可能性』

— 国際コンテナターミナル株式会社 石澤 嘉裕 社長を囲んで —

1、日時・所 2006年11月30日 千代田区和泉橋区民館

2、勉強会の概要

(1) コンテナ埠頭の取扱量の限界については、従来各種推測がされているが、当部会では大井コンテナバースの各機能の数量的分析とバースあたりの年間最大取扱可能量の推計の検討を更に深めてゆくため、大井 No. 3、4バースの現況と可能性について TICT 石沢社長を囲んで以下のような勉強会を開催した。

取扱量の分析に当たっては、コンテナターミナルの機能別に分析する必要がある。ターミナルの主要機能は次の4機能に別けることができる。

- ① 岸壁部分の機能
 - ② ゲート機能
 - ③ ヤード機能
 - ④ その他 (M & R、動物・植物検疫・リーファーコンテナモニタリング等)
- (2) 岸壁部分の取扱量は1,150個/日で平均バース占有率は48%であった。
- (3) ゲートの取扱量は1,800~2,100 UNIT/日 (平日)。平均ゲートタイムは3分間/UNIT (週のピーク日にはほぼフル稼働状況)。
- (4) ヤードの能力は蔵置能力14,490 UNITで平均在庫数は9,120 UNIT。ピーク時在庫数11,980 UNIT。



以上等から年間最大取扱い MAX 能力を試算すると、880,000 TEU/年となる。現行取扱取扱量は688,000 TEU/年であるから、現状の30%増ということになる。しかし、ゲート、ヤード機器は現状でフル稼働なので、能力増強が前提となる。

また、この数値はあくまでターミナルオペレーターという範囲からの試算であり、この MAX のどの程度が現実的取扱量になりうるかは道路の改造、ヤード規模など施設提供者の努力に待つところが大きい。

東京港の競争力維持は大井埠頭の一層の活力強化にかかっている。この観点から当部会では提起された課題の検討を精力的に進めてゆくこととしたい。

つぶやき

会員の皆様からの投稿です

井の中の蛙と湯の中の蛙

高橋恵三



井戸の中の狭い世界に安住している蛙の能天気な暮らし振り例えて、島国育ちの私たちの視野の狭さがしばしば皮肉られます。ところで最近、蛙にもう一つ面白い習性があることを話題の映画「不都合な真実」を観て知りました。

ご覧になった方もあるかと思いますが、冷たい水の入った壺の中の蛙を熱い湯の入った壺に移すと蛙はビツクリして飛び出します。ところが冷水の壺を火にかけて徐々に熱して行くと蛙はそのまま、茹でてしまう寸前に救出されるまで飛び出さないのです。

この話、私などつくづく身につまされました。狭い井戸とそこから見える天の範囲を全宇宙都思いこんでしまうばかりか、肝心の水温が変動する現実にも全く気づかなくなってしまうのは大変です。

いま、東アジアの港湾世界で起きている激烈な生き残り競争も、この地域における中国、日本、韓国などの経済覇権戦争—外部条件激変の縮図に外なりません。

変化への対応に気がつかない「茹でたて蛙」にはなりたくないですね。

平成19年2月26日から28日の3日間、当研究会有志8名により発展著しい韓国釜山新港を見てきました。視察報告は次の広報誌で報告します。

釜山新港視察日程

日数	日時	発着時間	発着地	交通機関	摘要
1	2月26日 (月)	07:20 09:20 11:45 15:30 16:30	空港集合 羽田空港発 金浦空港着 ホテル着 クレア事務所訪問	JAL8831便	韓国事情ヒヤリング 清溪川ーライトアップ ソウル泊
2	2月27日 (火)	08:00 08:40 11:29 13:30 14:10 15:10 16:10 17:10 18:10 20:54	ホテル発 ソウル駅発 釜山駅着 港湾公社訪問 港湾公社発 広報館着 広報館発 釜山駅着 釜山駅発 ソウル駅着	KTX号 レンタカー KTX号	専門通訳、ヒヤリング 広報映像、説明 場内入場視察 ソウル泊
3	2月28日 (水)	08:00 17:30 20:20 22:15	ホテル発 ソウル市内見学 空港集合 金浦空港発 羽田空港着	JAL8834便	着後解散

事務局から

事務局長 大野 皓一郎 090-6018-1013



広報誌第2号をお届けいたします。今回は、会員有志による韓国の釜山新港他の現地調査を2月末に行いました。現在視察団員皆さんに調査行の投稿をお願いしています。次号をお楽しみにして下さい。

また、事務局では、新年度を迎え会員の皆様に当NPOの会員の継続と新たな会員の入会のお誘いをお願いしております。本年度も更なる活動を展開していくことにしておりますので皆様のご協力をお願い致します。



新会員を募集しています。詳しくは事務局までご連絡ください。

事務局 清水 武雄 090-3427-0370